

12 月 13 日出題のレポートのコメント (情報統計学)

今回は難しかったようです．下記を参考にして再度考えてみてください．それでも不明な点は質問に来てください．

問題 68 の (1) について S は，取り得る値が $\{0, 1\}$ の確率変数であることに注意する．

$$S = 0 \iff X = 0$$

なので，

$$\mathbb{P}(S = 0) = \mathbb{P}(X = 0) = f(0|\theta) = \left(\frac{\theta}{2}\right)^{|0|} (1-\theta)^{1-|0|} = 1-\theta$$

となる．また，

$$S = 1 \iff X = -1 \text{ または } X = 1$$

である．すなわち，

$$\{S = 1\} = \{X = -1\} \cup \{X = 1\} \quad \text{かつ} \quad \{X = -1\} \cap \{X = 1\} = \emptyset$$

である．これより

$$\begin{aligned} \mathbb{P}(S = 1) &= \mathbb{P}(\{X = -1\} \cup \{X = 1\}) = \mathbb{P}(X = -1) + \mathbb{P}(X = 1) \\ &= f(-1|\theta) + f(1|\theta) = \left(\frac{\theta}{2}\right)^{|-1|} (1-\theta)^{1-|-1|} + \left(\frac{\theta}{2}\right)^{|1|} (1-\theta)^{1-|1|} \\ &= \theta \end{aligned}$$

となる．よって，

$$f_S(s) = \begin{cases} \theta & (s = 1), \\ 1 - \theta & (s = 0), \end{cases} \quad (1)$$

となることに注意する．この結果を利用して， S は θ の十分統計量であるかどうかを確認せよ．

問題 68 の (2) について S の期待値は (1) を使えば簡単にわかる．しかし， X の確率分布を用いて次のようにも表現される．離散型の確率変数の定義を思い出す：

$$\mathbb{E}[S] = \mathbb{E}[|X|] = \sum_{x=-1,0,1} |x|f(x|\theta)$$

である．レポートを提出したものの全員が絶対値を忘れていた．

問題 68 の (4) について S と T の MSE はともに定義域は开区間 $(0, 1)$ で値域は正の領域になるような関数である．

問題 71 記号の定義の補足

$$I_{(\mu, \infty)}(x) = \begin{cases} 1 & (x > \mu), \\ 0 & (x \leq \mu), \end{cases}$$

である .

問題 71 の (1) について 期待値の定義より

$$\begin{aligned} \mathbb{E}[X - \mu] &= \int_{-\infty}^{\infty} (x - \mu) f(x; \theta) dx \\ &= \int_{\mu}^{\infty} (x - \mu) \frac{1}{\sigma} \exp\left\{-\frac{x - \mu}{\sigma}\right\} dx \end{aligned}$$

となる . 変数変換

$$y = \frac{x - \mu}{\sigma}$$

を用いるとよい . 分散は求めるために ,

$$Y = \frac{X - \mu}{\sigma}$$

とおくと Y の確率密度関数は

$$f_Y(y) = e^{-y} I_{(0, \infty)}(y)$$

となることに注意する . ただし ,

$$I_{(0, \infty)}(y) = \begin{cases} 1 & (y > 0), \\ 0 & (y \leq 0), \end{cases}$$

分散の性質より

$$\text{VAR}[X] = \text{VAR}[\sigma Y + \mu] = \sigma^2 \text{VAR}[Y]$$

となる . さらに , 分散の公式から

$$\text{VAR}[Y] = \mathbb{E}[Y^2] - \{\mathbb{E}[Y]\}^2$$

となることを利用する . あとは ,

$$\begin{aligned} \mathbb{E}[Y^2] &= \int_{-\infty}^{\infty} y^2 f_Y(y) dy = \int_0^{\infty} y^2 e^{-y} dy, \\ \mathbb{E}[Y] &= \int_{-\infty}^{\infty} y f_Y(y) dy = \int_0^{\infty} y e^{-y} dy, \end{aligned}$$

を計算すればよい . $\mathbb{E}[X - \mu]$ も上の式に帰着される .

問題 71 の (2) について μ が既知とする . σ の最尤推定値 $\hat{\sigma}$ を求め , 最尤推定値の不変性 (定理 6.3) より σ^2 の最尤推定値は $(\hat{\sigma})^2$ となることに注意する . $X_1 = x_1, X_2 = x_2, \dots, X_n = x_n$ が与えられたときの σ の尤度関数は

$$L(\sigma | x_1, x_2, \dots, x_n) = \prod_{i=1}^n \frac{1}{\sigma} \exp \left\{ -\frac{x_i - \mu}{\sigma} \right\} = \frac{1}{\sigma^n} \exp \left\{ -\frac{n(\bar{x}_n - \mu)}{\sigma} \right\},$$

$$\bar{x}_n = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i$$

となる . したがって , σ の対数尤度は

$$\ell(\sigma) = \log L(\sigma | x_1, x_2, \dots, x_n) = -n \log \sigma - \frac{n(\bar{x}_n - \mu)}{\sigma}$$

したがって , σ の対数尤度について σ の最大化問題を解けば , σ の最尤推定値 $\hat{\sigma}$ を求めることができる .

問題 71 の (3) について

$$\begin{aligned} \mathbb{E}[(\bar{X}_n - \mu)^2] &= \mathbb{E} \left[\left(\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i - \mu \right)^2 \right] = \frac{1}{n^2} \mathbb{E} \left[\left(\sum_{i=1}^n (X_i - \mu) \right)^2 \right] \\ &= \frac{1}{n^2} \mathbb{E} \left[\left(\sum_{i=1}^n (X_i - \mu) \right) \left(\sum_{j=1}^n (X_j - \mu) \right) \right] \\ &= \frac{1}{n^2} \mathbb{E} \left[\sum_{i=1}^n (X_i - \mu)^2 \right] + \frac{1}{n^2} \mathbb{E} \left[\sum_{i=1}^n \sum_{j \neq i} (X_i - \mu)(X_j - \mu) \right] \\ &= \frac{1}{n^2} \sum_{i=1}^n \mathbb{E} [(X_i - \mu)^2] + \frac{1}{n^2} \sum_{i=1}^n \sum_{j \neq i} \mathbb{E} [(X_i - \mu)(X_j - \mu)] \\ &= \frac{1}{n^2} \sum_{i=1}^n \mathbb{E} [(X_i - \mu)^2] + \frac{1}{n^2} \sum_{i=1}^n \sum_{j \neq i} \mathbb{E}[X_i - \mu] \mathbb{E}[X_j - \mu] \end{aligned}$$

となる . ただし , 最後の等号は X_i と X_j ($i \neq j$) の独立性よりわかる .

問題 71 の (4) について 問題の推定量は $\text{VAR}[X]$ の不偏推定量であることは講義の議論からはわかる . すなわち ,

$$\mathbb{E} \left[\frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2 \right] = \text{VAR}[X]$$

である . あとは (1) の結果を利用する .

問題 71 の (4) について

$$g(\sigma) = \mathbb{P}(X_1 > t) = \int_t^{\infty} \frac{1}{\sigma} \exp \left\{ -\frac{x - \mu}{\sigma} \right\} dx$$

を求める．最尤推定値の不変性 (定理 6.3) より $\mathbb{P}(X_1 > t) = g(\sigma)$ の最尤推定値は $g(\hat{\sigma})$ となることを利用すればよい．